

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年2月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2275100382
法人名	有限会社ケアサポート・豊田
事業所名	グループホームすきっぷ
所在地 (電話番号)	焼津市保福島1251 (電話) 054-620-9335

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成19年11月2日

## 【情報提供票より】(19年10月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人, 非常勤 10 人, 常勤換算	6.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

### (4) 利用者の概要(10月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青島北クリニック
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者本位のサービス提供を職員全体で考え、利用者が充実した生活を継続できるようにさりげない支援に徹している。利用者の出来ることには、時間がかかっても見守るように努め、利用者の心身機能の維持と向上に向けて支援している。法人代表者と管理者、職員の関係が良好で、全体で利用者のことを第一に考え、常に課題を共有して、より良いサービス提供に向けて検討を重ねている。利用者も職員を信頼しているため、穏やかにゆったり生活している。家族からも信頼が寄せられている。開設5年目を迎え、地域との交流も深まり、常により良いサービス提供を考えているので、今後の取り組みにも期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題を全ての職員で確認し、改善に向けて努力している。利用者本位のサービス提供を心掛けており、取り組む課題を職員間で共有して解決に向けて検討を重ねている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を十分理解し、全ての職員で自己評価に取り組んだ。一人ひとりが持ち寄った課題を共有し、更なる取り組みに繋げていこうと考えている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は10月から発足し、2ヶ月に一度定期的開催している。ホームの運営内容を伝えると共に、利用者の生活やサービスの向上に向けて意見を得る場と位置付けている。発足したばかりであるが、明確な開催趣旨を理解しているため、今後の取り組みに期待できる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との連絡は定期的に行い、何でも言える関係づくりに努めている。家族から些細な意見や要望も受け止め、できる限りそれに沿えるように検討している。また、必要な事柄は運営に反映させるようにし、苦情があった場合にも速やかに解決できるような仕組みも講じられている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流の必要性を十分認識し、自治会活動にも積極的に参加し、近隣住民との交流にも努めている。自治会との関係は良好で、災害時等の協力も得られる関係となっている。ホーム自身も更に交流を深め、地域に根付くホームづくりを行っている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者も地域の一員であり、地域に根付くホームづくりを行うといった理念を明確にし、利用者本位のサービス提供を行う考えを内外に示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践していくために、朝の申し送り時や定期的な全体会議の際に確認し、全ての職員が理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会活動や地域行事に積極的に参加し、地域住民と交流を深めている他、野菜等を栽培することで近隣住民との交流を深めている。また、ホーム行事等には近隣住民を招くようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行う意義を十分理解し、管理者及び職員全体で自己評価に取り組んだ。個々の評価を持ち寄り、話し合うことで全体の課題とし、共有している。今後もそれらをもとに話し合い、より良いサービス提供に取り組むことにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会や家族代表、市や地域包括支援センター職員等をメンバーに、10月から2ヶ月に一度定期的に開催している。ホームの運営やサービス提供状況を伝え、より良くするための取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行う委員会委員の委嘱を受けたり、市との連絡も定期的に行っている。介護相談員の受入れも行い、利用者の声などの把握に努める他、地域密着型サービスの実践に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問も多く、訪問の際には利用者の生活の様子や健康状態等を伝えている。また、月に一度利用者の生活の様子を写真を添えて家族に便りを送付している。利用者との絆を大切に考え、定期的な家族との連絡に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから家族とは連絡を取り合える関係となっており、気軽に何でも言える雰囲気づくりにも努めている。家族からの意見や要望は些細な事柄でも受け止め、運営やサービス提供方法に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動に対する利用者へのダメージを良く理解し、それが起こらないように努力している。法人代表者や管理者及び職員とは信頼が深められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	サービスの質の向上には、研修の充実が不可欠と考え、職場内研修及び外部研修受講も積極的に行っている。研修後は、ホーム内研修を行い、その内容についての共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修受講時や日常業務の中で、他事業所との交流を図るようにしているが、定期的な相互訪問や勉強会を行うにまでは至っていない。利用者の生活向上に向けて何事にも取り組もうと考えている。	○	地域内の介護サービス事業所職員との定期的な交流や研修の実施は、それぞれの事情もあり難しいが、利用者へのサービス向上に向け、事例やケース検討等が行えるような働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	顔なじみの関係を大切に考え、利用者に応じたサービスを徐々に提供できるように配慮している。利用者の気持ちを大切に考え、様子を見ながらのサービス提供に心掛けている。提供方法についても職員間で確認し合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と同目線を同じにし、相手の立場にたって接するように心掛けている。一方的なサービス提供ではなく、信頼関係を大切に考え、お互いに喜び合える関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者及び家族からこれまでの生活歴や趣味、生きがいごとを把握し、利用後の日常生活においても言動や仕草から希望や意向の把握に努めるようにしている。その内容は記録し、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の希望や意向を把握し、それを反映させた介護計画を策定している。一人ひとり具体的な支援計画と目標を策定し、伝達ノート等を活用して、全ての職員で計画内容を共有することに努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一人ひとりの介護計画には、それぞれ見直し期間が記載され、定期的なモニタリングが行われ見直しも適切に行っている。状況の変化により随時見直しも行われ、時々現状に合わせた計画となるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの特性や柔軟性を理解し、利用者や家族の希望に柔軟に応じられるようにしている。その時々状況や要望に応えるように、弾力的な対応を行えるように配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行うとともに、ホーム協力医により月2回の定期的な往診が行われている。緊急時にはいつでも連絡が取れる体制となっている。かかりつけ医、ホーム協力医ともに利用者の状況を確認することができ、連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の利用者の状況を維持することを目標としている。終末期への対応については、利用者及び家族、かかりつけ医との検討を深めている。	○	ターミナルケアについては利用者、家族によりその思いも異なり、一律に行えるものではないが、早期から定期的に意向や希望について確認し、段階的な取り組みが行われるように期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、人格や尊厳を損ねることが無いように留意した支援が徹底されている。また、個人情報の保護についても理解を深め、取扱いは適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のサービス、生活に重点を置いているので、利用者のペースを最大限配慮し、その人らしい生活がゆったりと充実して送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を調査したり、旬の食材を使用する等、利用者にとって楽しい食事時間となるように配慮している。食事の準備や片付け等も一緒に行い、楽しい一時となるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴も利用者にとって楽しみな一時と位置付け、毎日14時20分から就寝までいつでも入浴できるようにしている。安心して入浴できるように声掛けを行ったり、心身の状況に合わせた支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴と日常生活での言動等から趣味や嗜好を把握し、充実した生活が送れるように支援している。また、ホーム内の役割も無理が生じないように留意しながら、張り合いのある生活となるように分担する等工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により積極的に外出支援を行い、季節ごとに自動車で遠出する等している。職員の関係で、いつでも全てに応じれていないことを課題としているが、できる限りホームに閉じこもることが無いように楽しく外出できるように支援している。	○	利用者が関心をもって楽しく外出できるように考えている。今後もそれに応えられるように検討を重ねることを期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を十分理解し、日中の施錠は一切無い。利用者の自由な行動を見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施し、利用者の安全確保に繋げるようにしている。また、近隣住民、自治会に災害時での協力が得られるような関係づくりも進められている。	○	あらゆる事態を想定し、自治会に協力が仰げるようになっていく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状況に合わせた栄養と水分摂取が行えるように留意し、記録もされている。食事でも栄養のバランスに留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は全体的に明るく、季節の植物や装飾を施し、ゆったりと快適に過ごせるように配慮している。利用者が自然に居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前から使用していた家具や調度品等が持ち込まれ、一人ひとり個性ある居室となっている。また、職員も利用者が居心地良く過ごせるようにそれを支援している。		